

# 平成 28 年度 発達障害医学セミナー

「発達障害支援の今日的トピックス

—薬物療法の潮流、現代を生きる生活への支援—



【日時】2016年12月17日（土）～18日（日）

【場所】青山学院大学青山キャンパス 17号館 17311教室

【参加者】144名

【コーディネーター】古荘純一（青山学院大学教育人間科学部教育学科）

【主催】公益社団法人 日本発達障害連盟

## ■ プログラム

---

(敬称略)

12月17日(土) 9:50-17:20

自閉スペクトラム症の薬物治療

中川栄二(国立精神・神経医療研究センター病院)

親支援～家庭の捉え方・支え方～

田中哲(東京都立小児総合医療センター)

ADHD:臨床と脳科学の立場から

宮尾益知(どんぐり発達クリニック)

ADHD 児への行動療法

向笠章子(広島国際大学大学院 心理科学研究科実践臨床心理学専攻)

怒りのコントロール

小沢浩(島田療育センターはちおうじ)

2月7日(日) 9:00-12:50

発達障害のペアレントトレーニング

長瀬美香(心身障害児総合医療療育センター)

自閉スペクトラム症へのオキシトシン治療とその臨床応用への展望

山末英典(浜松医科大学精神医学講座)

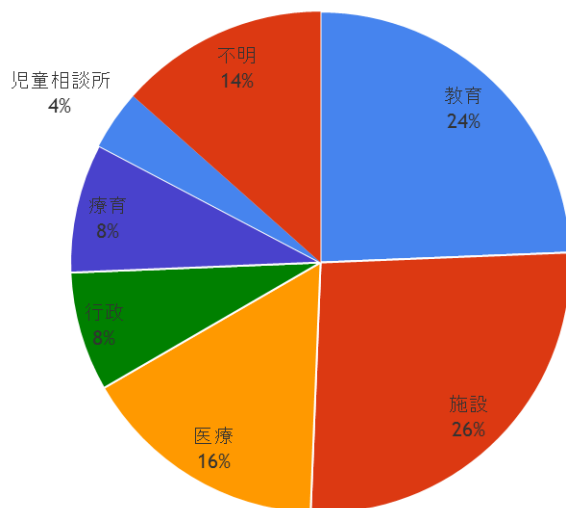
発達障害とネット依存症

久場川哲二(久場川こども発達クリニック)

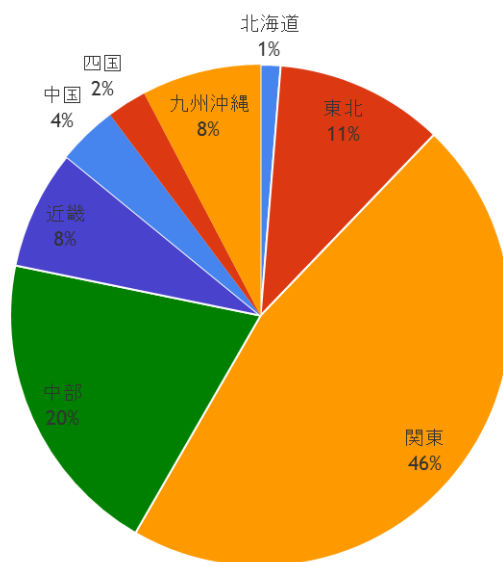
## ■ 参加申込状況

---

### ■ 所属



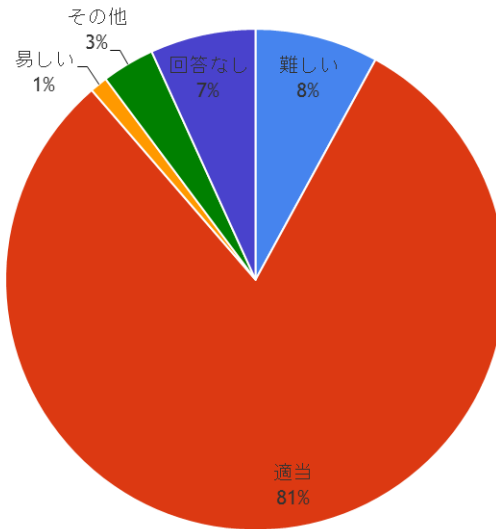
### ■ 在住都道府県



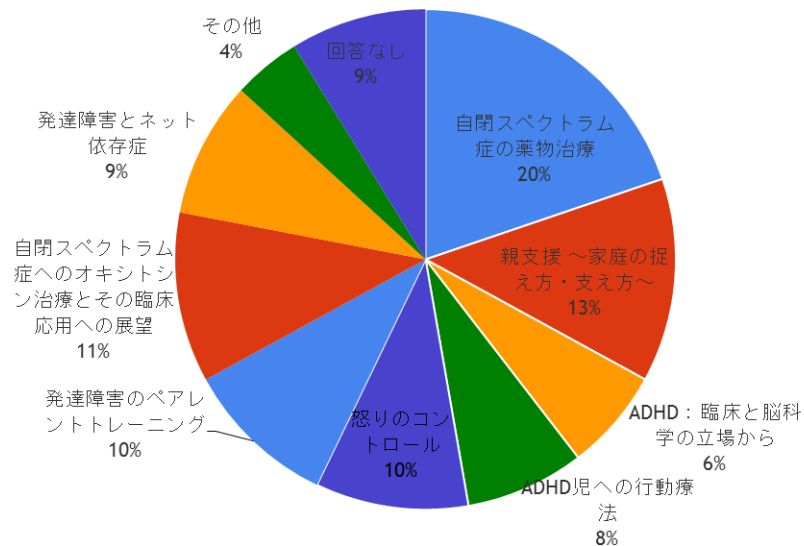
## ■ 参加者アンケート（回答 88 名）

---

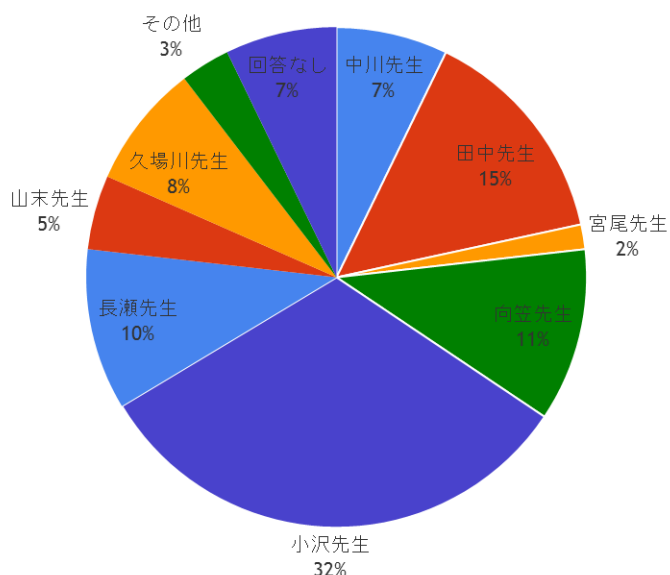
### ■ 内容について（難易度）



### ■ 最も関心が高かったテーマ（複数回答）



## ■ 最も印象に残った講師（複数回答）



## ■ 参加者の皆様からの声

「最新の医療面からのアプローチのお話を聞くことができ、とても新鮮で大変勉強になった。」

「とても充実した内容で楽しく勉強になった。一度にたくさんの情報を得られてうれしかったが、もう少し1つずつの講義を、時間をかけてじっくり聞きたかったという思いもあった。」

「薬物療法の例をいろいろな先生方から伺えて、普段利用者が服用している薬についてよくわかり、考える視点ができた。」「発達・成長して自立して就労するには家庭の存在、親の行動や考え方、関わり方を見て感じて育つこと。親支援の大切さについて改めて気づかされた。」「本人とその周りの理解を図式化して考えることで、イライラの原因をどう変えていくか、すぐ実践していきたいと思った。」

「ADHDの子への具体的な支援内容・事例が分かりやすく、実践したくなる内容だった。」

「ペアレントトレーニングのロールプレイが深く印象に残った。今できていることに注目し、ほめてあげる。あたりまえの事、頭では理屈として理解していることであっても、体感することでより具体的に方法を考えることができた。」

## ■ 最後に

ご参加、ご協力いただきました皆様には厚く御礼申し上げます。

今回のテーマは「支援の今日的トピックス」ということで、薬物治療、オキシトシンの展望、問題行動への精神療法をふまえた対応法、親支援、ネット依存症で特に発達障害に焦点をあてたテーマなど、多岐にわたる内容でしたが、どの講義も、いろいろな立場から支援に関わっている講師による専門性の高い最新の研究、事例、臨床の知見を含み、実際の支援に役立つ学びの多いセミナーとなりました。

なお、本セミナーの講演の内容は、日本発達障害連盟発行の「発達障害医学の進歩 29」に収録されます。